

2011年度 な～に谷っ戸ん田 第22回目
堀之内畑の芋試掘り・田奈田んぼの稗取り・話し合い

日 時 平成 23 年 9 月 17 日 (土) 9 : 30 ~ 15 : 00 頃
場 所 堀之内の畑、田奈のテツさんの田んぼ、上のテツさん小屋
天 気 晴れたり曇ったり時々どしゃぶりの雨
参加者 石田+ヒデ君、霧生、丸山 (AM)、チャリママ佐々木+優聖、高田直子、加藤 (A
M)、久保、松下 (AM)、梅下+ (日菜子・浩太郎・裕二郎)、藤田 (PM)、磯
(PM)、尾末 (AM)、坂本 (AM)、吉田、松本夫婦
計 21 名 (内子供 5 名)

午前 田奈のテツさんの田んぼ
先週ある程度取り除いた稗も、1 週間経つとそれなりに回復していた。気を取り直して 11 時まで稗の穂先取りに勤しみ、それなりに田んぼらしくなった！？
堀之内の畑に移動して、サツマイモとサトイモの試掘り他の作業を行う。サツマイモは一列の、隣りに大豆が生えている辺りまで掘り、サトイモは 4 株？掘り起こした。サツマイモはなかなかの出来、サトイモはもう少し置いた方が良さかもしれないなかった。
(休憩に加藤先生よりお煎餅、松本より梨の差し入れ)

昼食 雨だったので、上のテツさんの小屋で各自用意 (調達) したお弁当を食べる。

午後 天気が気まぐれであり、当面急いで行う作業も無いことから、谷っ戸ん田の今後について話し合いをしようと言うことになった。主な議題は今年度で横浜市の栽培収穫体験ファームの期間が満了するのに伴い、来年度以降も自主的にな～に谷っ戸ん田を継続するか否かについてであった。この場に出席したのは全 11 区画の内の 8 区画のメンバー (加藤、オズ、高橋の区画が欠席) で、横浜市からの補助金がなくなり、多少負担金が増えても出席の 8 区画は継続に賛成、それに伴い刈払機の購入も内定した。(園主テツさんの意向が OK と仮定して) 正式な話し合いは全 11 区画のメンバーが揃う別の機会に持たれるが、この場では今後の方向性について、メンバーの意見が一致したものと捉える。

* 収穫したサツマイモとサトイモの分配について、有料にすべきだ、無料で良いのではないか等、意見の相違があった。無料の場合は、収穫分配に参加出来なかったメンバーに対して不公平が生じる (確かに一理あり) 等で、今回は 11 等分したが、菜っ葉類など次週以降まで保管の難しい作物の場合はどうするか。出席率の問題・労働の対価とは考えないという思想 (いつまで皆納得出来るか) 等々問題山積。よって持越し課題。

* 次回、9 月 24 日は、いよいよ稲刈りです。

記録：松本純

話し合いの詳細

日時: 2011/09/17(土) 14:30-

参加者: 石田、霧生、佐々木、高田直子、久保(議事進行)、梅下、藤田、磯、松本夫婦、吉田 (敬称略)

議論テーマ: 来年度の谷っ戸ん田活動について

結論:

(1)来年度も谷っ戸ん田は活動継続します。来週にでも、久保さん(or 石田さん)からテツさんに意志表明します。

(2)来年度の代表は石田さんから「だれか」に交代します。

(3)刈り払い機を購入します。マキタのやつ。

議論の流れなど:

・今年度のチップパー購入費用(約 1,000 千円)は、当初テツさんと谷っ戸ん田で折半する予定だったが結局はテツさんの全持出しで購入。

・谷っ戸ん田用備品として刈り払い機を購入を検討していたところ、テツさんから、ところで君たち来年どうするのと言われた。

・谷っ戸ん田の協定事業設定期間としてはあと 2 年、2013 年度いっぱいまで。ただし助成金が出るのは今年度まで。

・会員の意志を確認し、来年度以降の活動継続を園主に伝えねばならない。

・石田さんがグリーンを退職し活動拠点が遠方となったこともあり、活動体制の見直しも必要。

・石田さんから、来年度は会の代表を交代してほしいとの申し出。

・今年度の班制での活動は前進だった。来年度以降につなげていきたい。

・体制面の検討は後日あらためて。

・刈り払い機のコストは、素人用のもので 20 千円/台ぐらい、プロ用で 70-80 千円/台ぐらい。テツさんからは素人用でいいだろうとの助言。石田さんからは素人用ならばマキタのやつがいいとの助言。

・刈り払い機の保管場所としてグリーンをあてにしていたが、石田さんなき後は頼みづらくなってしまった。田車同様、テツさんハウスを使わせてもらえるよう要交渉。

・助成金なしで谷っ戸ん田を続けていくことによる園主および会員の収支面の調整を考える必要がある。後で考える。

・お百姓さんとのつきあいなので、金勘定以外の微妙な要素を考慮しないといけない。面倒だが必要なことだ。

・同じく、収穫物の分配の問題も要検討。

・協定事業としての必要条件を達成しなくてはいけないという活動前提もある。

・谷っ戸ん田の精神は農を楽しむところにある。ルールとか規則を決めるのも大事だがきちきちにはしたくないものだ。最低限度の決めでいきたい。以上

記録: 磯